

安井てつと広岡浅子展

東京女子大学 創立 100 周年記念事業 / 「挑戦する知性」プロジェクト

安井てつ（1870～1945）はケンブリッジ大学、オックスフォード大学で教育学を学び、東京女子大学の創設当初より学監として初代学長新渡戸稲造を補佐し、また、第2代学長として建学の礎を築きました。

広岡浅子（1849～1919）は実業家であるとともに女子教育にも深い理解を示し、日本女子大学の設立にも深く関わりました。二人は女子教育の理想を追求し、活発に意見交換をした仲でした。

女子教育のパイオニアである安井てつと広岡浅子の事績を辿ることで、新しい時代に相応しい女子教育について皆様と共に考えていただく機会となるよう本展示会の開催を企画しました。

【イラスト作成：本学学芸員課程履修学生有志】



広岡浅子

2018年に東京女子大学は
創立100周年を迎えます！



安井てつ

日時：

2016年3月16日（水）～同年5月18日（水）

毎週水曜日 10:00～16:00 開室

会場：

新渡戸記念室（東京女子大学本館2階）

【事前予約制】

学外よりお越しの方は、下記まで事前にご予約ください

お問い合わせ先

学校法人 東京女子大学 大学運営部総務課

〒167-8585 杉並区善福寺 2-6-1

Tel: 03-5382-6340



—— 挑戦する知性 ——

東京女子大学

東京女子大学 第2代学長 安井てつ

1897年、イギリスに官費留学、ケンブリッジ大学とオックスフォード大学で教育学・心理学などを学びました。留学中にキリスト教の信仰を持ち、帰国後、受洗。女子高等師範学校教授を経て、1904年から3年間シヤム国（タイ）の皇后女学校教育主任を務めたのち、ウェールズ大学で学びました。東京女子大学の創立にあたって学監に就任。1923年、第2代学長に就任しました。

女子に学問が開かれていない時代に国際的な視点を持ち、女子教育に尽力され、東京女子大学の礎を築きました。また、日中戦争、第二次世界大戦にいたる困難な暗黒の時代に、キリスト教主義大学としての東京女子大学を守り、敗戦の年の暮れに逝去されました。



作家 古川智映子さんは東京女子大学の卒業生です。代表作の一つ『小説 土佐堀川—女性実業家・広岡浅子の生涯—』（潮出版社）はNHKドラマ「あさが来た」の原案で、いま、社会的に注目を集めています。本展示会を契機に、古川さんから東京女子大学へ特別に映像メッセージをいただきました。多くの皆様の御来場をお待ち申し上げます。

「安井てつと 広岡浅子」展の5大挑戦

- 1 安井てつの書簡等をデジタルアーカイブで紹介します
- 2 安井てつの新発見直筆書簡を展示します
- 3 古川智映子さんの特別インタビュー映像を上映します
- 4 等身大の安井てつの切り出しパネルが御来場の皆様をお迎えします
- 5 本展示会の見どころガイドブックを配布します（数に限りがあります）